

## 一言メモ

### 1・板橋不動尊（1月10日は初詣でにぎあうことが予想されます）

正式名称「清安山不動院願成寺」は真言宗豊山派に属する寺院で、開創約1200年の歴史をもつ加持祈祷の道場です。

関東三大不動尊の一つと言われ、北関東三十六不動尊霊場の一つでもあります。

国指定重要文化財の不動明王を本尊とし、「板橋のお不動さん」として古くから関東一円のたくさんの皆さんから親しまれてきました。

### 2. 岡堰

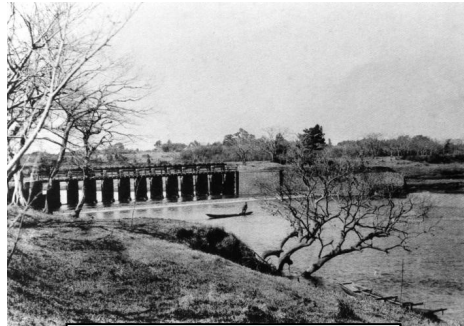
江戸幕府が成立し、安定期に入り始めた寛永年間（1624から1644）、関東郡代となった伊奈半十郎忠治は、洪水を防ぐために鬼怒川と小貝川を分離しました。そして取手市戸田井付近の台地を切り開き、利根川と合流する今のような小貝川の流路が完成しました。

小貝川は鬼怒川と切り離されることで川の流路が安定し、寛永7年（1630）には岡堰が設けられました。岡堰にためられた水が用水となり、相馬二万石と呼ばれる広大な新田が誕生しました。

しかし、工事は現在のように簡単ではなく、多くの労力と様々な失敗を繰り返しながら行われました。勢いの強い水の流れを変えるために、萱と竹を使った独特の工法である「伊奈流」が苦労の末に編み出されました。昭和に入ってから、人々は堤防や堰の決壊時には、この伝統的な工法である「伊奈流」で危機を乗り越えてきました。



赤松資次郎画伯が描いた明治32年以降



明治期の煉瓦造りの可動

### 3. 間宮林蔵記念館

この記念館は、18世紀後半にこの地に生まれ育ち、江戸に出て、北方で活躍した大探検家・測量家である「間宮林蔵」を紹介するために（旧）伊奈町が顕彰事業の一つとして建設したものです。館内の展示は、間宮林蔵に関するもの及び彼の生きた時代背景などで構成され、時代に沿った紹介をしています。全国各地から収集した数少ない資料のほか、現子孫宅に伝わる遺品、林蔵にまつわる史跡などをおりませながらテーマごとに、展示しています。

## 4.結城三百石記念館

結城家は鎌倉時代初期の朝光公を始祖とする名族であり、江戸時代初期に当地に帰農して以来「結城三百石」と称され地方開発の中心的役割を担ってきました。郷土の発展を願って当家から寄付された屋敷を保存活用し、建物と周辺環境を整備して、市民利用施設として、広く公開することを目的としています。敷地内には母屋・長屋門・蔵などがあり、全体を自然観察路として整備し、四季折々の草花、野鳥、虫たちを見ることができます。館内では当時の生活をうかがい知ることができるように、生活具をもとの場所にそのまま展示してあります。また史料収蔵庫には江戸時代初期からの文書類が五千点以上保管されており、その一部が展示公開されています。